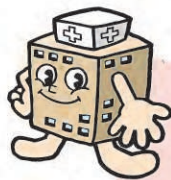


三豊総合病院だより Mitoyo General Hospital

発行●三豊総合病院

発行人●白川 和豊

KOKORO

2012
51

新年明けまして
おめでとうございます。

三豊総合病院 院長 白川和豊

新年明けましておめでとうございます。

昨年12月に、三豊総合病院は開院60周年を迎えました。人生と言えば還暦です。地域の中核病院として、住民の皆様の信頼にこたえるべく歩んできたこれまでの歴史を思い起こしながら、気持ち新たに次の10年を見据えて進んで行きたいと思っています。現在、地域住民の皆様のニーズに応えるために、最新の医療機器の導入や救急診療部門の充実のために、新棟整備事業を進めています。この事業は、来年春まで続く予定です。御迷惑をかけますが、御協力をよろしくお願いします。



東京大学の宇沢教授は、医療や教育は社会の共通資本であるといっておられます。当地域から優秀な人材を多数輩出してきたのは、教育に熱心な文化があったからです。十分な医療があったとは自信を持ってはいえませんが、医療や福祉の供給がしっかりしていることは、安心して居住できる地域の必要条件です。教育や医療は地域づくりの基盤となるものです。医療も教育も、「崩壊」させてはなりません。

「この地に住んでよかった」と思うために、住民自身が社会の共通資本を守っていこうとする文化を育んでほしいと思います。

さて、今後20年間に、人口の減少と高齢化率の上昇が予測されています。当地域の人口は13万人強から10万人程度に減少し、高齢化率は35%程度になると予想されています。疾病構造が変わり、医療需要もかなり変わります。急性期の高度機能病

床は少なくてもよくなりますし、介護施設あるいは居住系施設の需要は増加すると考えられます。今、国レベルでも医療と介護が見直され、昨年6月には、「医療と介護の長期推計」が公表されています。そのシナリオどおりに行くと、三豊総合病院もケアミックス型の病院に変貌していくのではないかと思います。姿は変わるかも知れませんが、病院の基本理念は、変わりません。

時代の推移とともに医療の内容は、大変精緻になりつつあります。求める側も供給する側も、精緻さを要求するようになって来ています。精緻さ（質）と量の増加が、医療にかかる業務量を膨大にしています。もともと香川県は、全国に比して外来受診率、入院率の高い地域です。一人当たりの医療費も安くはありません。当地域は供給過多で、供給が誘発する需要というものもありますが、適正な需給バランスを調整するというのはなかなか難しい。需要側からあるいは供給側から制限をかけることがやりにくい状況です。とはいえ、今後、財政的にも、人材的にも次第に厳しい時代を迎えます。資源の枯渇をきたすような浪費はすべきではありません。

医師や看護師の過重労働が問題になっており、その負担軽減対策に病院も苦心しています。皆様のご理解と、ご協力をお願いする次第です。



広域災害訓練

救急委員会委員長 長 町 顕 弘

テレビ画面に映し出された悲惨な状況は今も脳裏に焼き付いています。3月11日に発生した東日本大震災では多くの無垢の人々が無念のうちに犠牲になりました。大切な人や住む家、着る物を突然奪われた人々のお気持ちはいかばかりでしょう。でもこれは人ごとではありません。この地域にだっていつ起こっても不思議のないことなのです。

平成7年に発生した阪神淡路大震災での教訓をふまえ、当時の厚生省は全国に災害拠点病院を設立しました。香川県では8つの病院が指定を受けていますが、三豊保健医療圏では唯一三豊総合病院が指定されています。災害拠点病院の使命は、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を確保することが困難な状況となった場合に、都道府県知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行うことです。我々はこの使命を全うするため様々な努力を行っています。

いったん災害がおこると、多くの傷病者が発生します。しかし、災害時の急性期医療供給体制をどのようにするかを初め、関係各施設との連携、情報伝達方法、医療資器材や食料、飲料水、燃料の確保、亜急性期、慢性期医療供給体制など問題は山積しています。今回の災害訓練は、西讃保健福祉事務所、観音寺市役所、三豊市役所、三豊観音寺広域消防、三豊、観音寺警察署、三豊総合病院が一緒になって開催しました。

達成目標は2つに設定しました。第1の目標は関係各施設間の発災時の連携を具体化すること、第2の達成目標は三豊総合病院新棟完成後の各部署の動きに関する問題点を明らかにすることとしました。第1の達成目標のために、各施設の代表者に参集していただき、2回の図上訓練を行いました。発災時の連絡先、責任者の確認、伝達する情報の内容、各施設の初動体制の確認、医療救護所設置場所やその方法などが議論され、ある程度具体化を図ることことができました。第2の達成目標のために、12月1日の開院記念日に院内の災害訓練を行いました。災害対策本部の運営、情報収集のシミュレーション、各治療エリアでの模擬患者の治療など有意義な訓練が行われたと考えています。

本当に効果のある訓練を行うためには、地域の住民の方々にも参加していただく必要があります。そうすることによって災害発生時にどのようなことが起こり得るのかを実体験していただけたと思います。次回の訓練を企画する際には住民の方々にもお声をかけて、もっとよい訓練を行いたいと考えています。



▲ 災害対策本部にて報告を受ける管理者



▲ 新棟のローカは救急患者収容所に災害用ベット設置



▲ 救急隊による模擬患者搬送の様子

人工呼吸について

三豊総合病院 麻酔科 黒田 浩 佐

今回は、「息ができない!」というときにどういふことを行ふのか、さらには呼吸の手助けさえもできないような緊急事態にはどうするのか、という紹介です。

息がしんどい、息ができない、という呼吸困難な状態を引き起こす病態にはさまざまなものがあります。病気のせいでしんどくなるものや、モノが喉に詰まって息ができなくなるなど原因はさまざまです。数日、数か月をかけて徐々にしんどくなるものから、急に意識を失って倒れた場合など早急に呼吸の手助けをしなければならないものまで、緊急度もさまざまです。

簡単にいうと酸素を取り込んで二酸化炭素を吐き出すのが呼吸ですが、それを自分の力でしっかりと行うことができなくなってしまうと、人工呼吸をして呼吸の手助けをしてあげる必要性が出てきます。人工呼吸の機械にもいろいろな型があり、顔面に装着するマスク型のものや、気管挿管を行っての人工呼吸（口から喉の奥までチューブを入れて息の通り道を作り、そのチューブに機械をつないで呼吸を手助けする）などがあります。

病院で緊急に呼吸の手助けをする際に最もよく行われる方法は、気管挿管を行っての人工呼吸です。しかし、気管挿管というのは比較的難しい手技であり、熟練したベテラン医師であっても時に失敗する可能性がある方法です。その原因としては、そもそも個人個人で喉の奥の構造が微妙に異なっていることや、例えば肥満のせいで息の通り道が狭くなっていることなどが挙げられます。とはいえ、息が全くできないというのは死に直結する致命的な状況なので、最終的にはなんとかして息をさせる必要があります。しかも、遅れば遅れるほど、生命は助かったとしても脳の機能に障害が出てしまうことが多く、いわゆる植物状態をまねく可能性が高くなります。



そういった緊急事態に対応するために、息ができない場合、息をさせることもできない場合にどうしたらよいのか、という国際的なガイドラインがあり、さまざまな方法が推奨されています。具体的な内容は省略しますが、いろいろな道具を用いてなんとか息の通り道を確保しようとするわけです。いくつかある方法が失敗に終わると、最終的には外科的な方法を取ることになります。すなわち、緊急の輪状甲状膜穿刺あるいは気管切開といって、喉を切開して直接穴をあける方法を取ります。身体を傷つけることにはなりますが、とにかく呼吸をさせるというための緊急手段です。

息を手助けするといってもいろいろな形がありますが、種々の方法を使い分けながら、息がしんどいという訴えをできるだけ和らげたり、息ができないという緊急事態を乗り越えたりしています。
(イラストは「麻酔を受けられる方へ」日本麻酔学会のパンフレットより借用)

クリスマス会

小児科病棟

12月17日小児科病棟のプレイルームにおいてクリスマス会を行いました。プレイルームでクリスマスの曲をかけ、職員がポップコーンを作りました。

小児科医師がサンタやうさぎに変身し、参加者にプレゼントやポップコーンを渡しました。参加できなかった子どもたちには、サンタさんやうさぎさんが病室までプレゼントを届けてくれ、とても喜んでいました。



婦人科の患者様にもクリスマスカードやポップコーンをお渡し、一緒に楽しんでいただきました。参加者が少なく淋しい会かと思っておりましたが、スタッフが大いに盛り上げてくれました。参加してくださった先生、準備してくださったスタッフの皆様有難うございました。



中学生による音楽会及びイルミネーション点灯式

今年も、12月1日開院記念式典、防災訓練終了後に大野原中学校中学生による音楽会及びイルミネーションの点灯式が行われました。今年は、約150名の参加がありました。今年も有志が集まり「三豊総合病院歌」を披露しました。歌い終わった時に、会場より大きな拍手がありホッとしました。

その後、大野原中学校中学生合唱団による音楽会が行われました。中学生30名による合唱、童謡の独唱、先生による「アヴェ・マリア」などの独唱、トランペットによるjazzの演奏、香川県のAKB48のダンスなど楽しいひと時を過ごしました。先生による解説もあった為、よりわかりやすく合唱を聞くことができました。

最後に、観音寺ロータリークラブ会長、患者様代表、中学生代表、病院長、副院長にイルミネーション点灯スイッチを押していただき、すべてのイルミネーションが点灯すると会場より歓声と大きな拍手が沸きあがりました。

今年も皆様のご協力があり、点灯式を成功させることができました。実行委員会の皆様、ボランティアの皆様など職員の皆様のご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



高血圧性脳出血について

脳外科 斉藤 信幸

生活習慣病の一つと言える高血圧性脳内出血について考えてみます。

高血圧性脳内出血は高血圧によって脳の細い動脈が動脈硬化を来し、もろくなり出血して発症します。

予防には血圧を下げるのが重要です。脳卒中治療ガイドラインでは、発症予防の目標として高齢者は140/90mmHg未満、若年中年では130/85mmHg未満、糖尿病や腎障害合併例では130/80mmHg未満が推奨されています。

他の動脈硬化危険因子、例えば高脂血症や糖尿病の管理も重要です。それぞれ適正な治療目標があります。

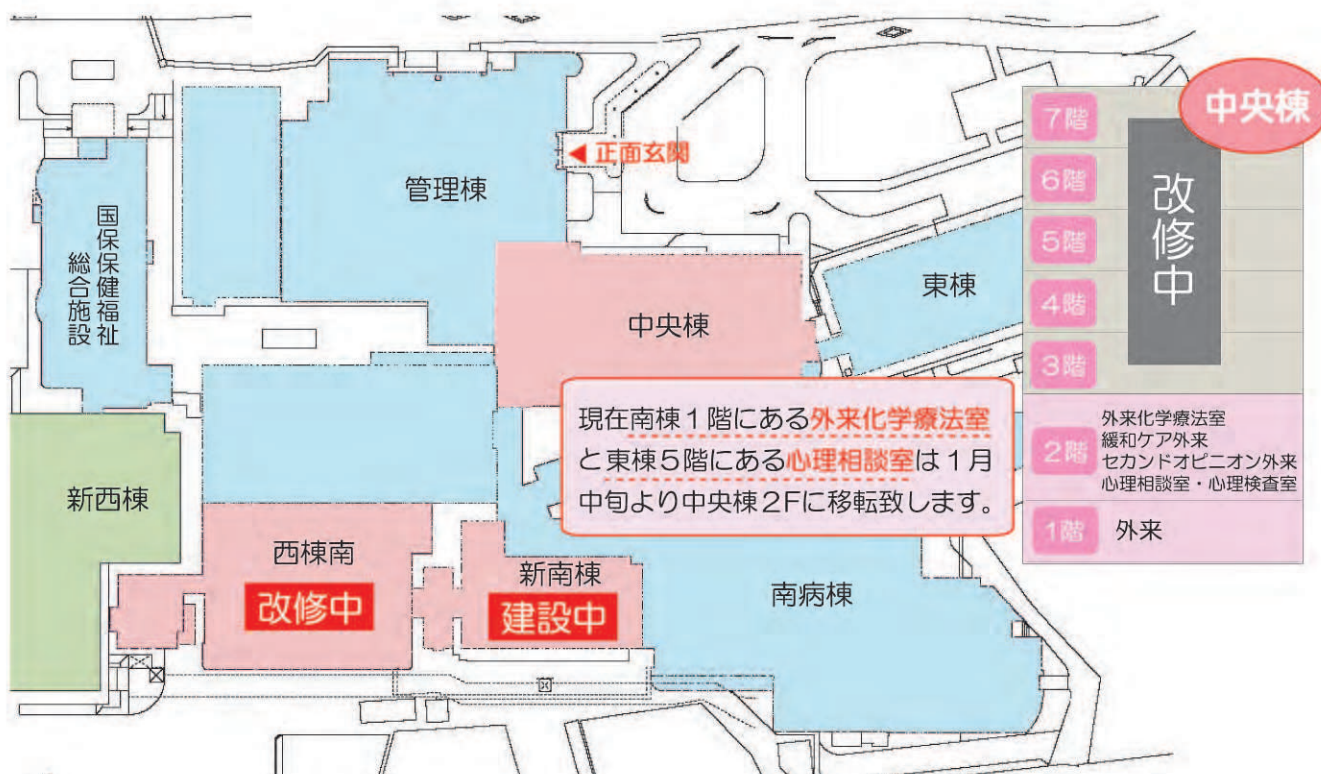
喫煙は体を痛めつけるだけです。やっかいなのはタバコを吸わない人が吸う人の側にいることで被る受動喫煙です。「受動喫煙も脳卒中の危険因子になり得る。」とガイドラインには書かれています。

飲酒は出血性脳卒中と相関があるとされていますので、過剰な摂取は控えるべきです。適量は諸説ありますが、外来では日本酒換算で1合/日未満と説明しています。それでも多いのかもしれませんが。

高血圧性脳内出血を予防するため、まず、高血圧治療が重要で、そのためには一日の血圧を記録することが必要です。外来に血圧を記録するノートがありますので、お気軽にお申し付け下さい。

外来化学療法室・心理相談室・緩和ケア外来移転のお知らせ

当院では、災害拠点病院としての安全性の向上や救急医療施設及び療養環境・アメニティの充実を図るために、西棟に引き続き下記工事を行っております。ご迷惑をおかけ致しますが、ご協力の程お願い致します。





毎月の行事食

栄養管理科

今回は今話題のレンジで簡単レシピを紹介します。
手軽で美味しい手作り蒸しパンケーキ、離乳食の
おやつにもぴったりです。

紙・アルミカップ・今人気のシリコンカップで作れ
ます。ぜひ試してみてください。

手作り蒸しパンケーキ



ホットケーキミックス…150g
牛乳……………70cc
卵……………1個
りんご……………1/2個
砂糖……………大さじ1

- ① りんごは皮をむき、大きめのみじん切りに切る。
- ② ボールに材料を入れ、よく混ぜる。
- ③ 型に8分目まで入れ、レンジで2~3分チンする。



11月 行事弁当

あけぼのご飯
魚の照り焼き
炊き合わせ
清汁
季節の和菓子



12月 クリスマス

ご飯
タンドリーチキン
スパゲティーサラダ
コンソメスープ
クリスマスカップケーキ



1月 おせち料理

ご飯、魚の照り焼き
京風たまご巻、正月かまぼこ
炊き合わせ、菊花かぶ・黒豆
栗きんとん・みかん
四季の和菓子

『健康フェア2012』開催のご案内 テーマ：「みんなで支えよう高齢者の食生活」

と き：平成24年3月10日(土) 9時00分～13時00分

と ころ：三豊総合病院 玄関ホール **入場無料**

講 演：10時00分～10時20分

三豊総合病院 地域医療部長 中津 守人先生 「見直してみましょう あなたの食生活」

講 演：10時20分～10時40分

三豊総合病院 栄養管理科管理栄養士 高橋 朋美 「安全にしっかり食べていきいき生活」

講 演：10時40分～11時00分

三豊総合病院 歯科保健センター医長 木村 年秀先生 「お口が寝たきりにならないために」

講 演：11時00分～11時45分

三豊総合病院 リハビリテーション科言語聴覚士 合田 佳史 「高齢者と嚥下～とろみについて考える～」

※皆様、お誘い合わせの上お越しください。

お問合わせ：三豊総合病院企業団 健康管理センター TEL0875-52-3366 (内線1610)